

2023年度 日本工学院専門学校											
デザイン科 プロダクトデザイン専攻											
卒業制作											
対象	3 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	360	単位	12
担当教員	白鳥 明石 岡本 松浦			実務 経験	有	職種	プロダクトデザイナー				
担当教員紹介											
担当教員は、商品の供給から販売までの業務に携わることで、デザインの役割を深く理解し、企業と商品企画した経験を基に授業を展開している。											
授業概要											
この科目では、各自またはゼミのテーマに基づき3年間のまとめとしての作品を制作する。卒業制作は、あくまで社会のニーズにもとづくもの、あるいは社会の問題・課題を改善するものを、調査・考察し、具体的な企画案を提案し、企画にもとづくツールやモックを制作し、広く一般に向けてプレゼンテーションすることを目的とする。											
到達目標											
この科目では、調査力、考察力、企画力、プレゼンテーション力、モノを作るための技術力や表現力、そしてこれら全体を含むプロジェクトを管理（マネージメント）する力を身につけることも目標とする。この中のどれかひとつが長けているのではなく、あくまでバランス感覚に優れた人物になるため、すべての工程において成果を出すよう、取り組むこと。											
授業方法											
この科目を受講する学生は、実践的な課題として、デザインの分野で重視されるテーマの企画を行い、提案に必要な資料やモデルを制作します。これから経験していく仕事の現場で、役に立つ企画を実践的な実習から学び、理解し、身に着けるようになる。プロダクトデザインの「商品企画」に関連する調査分析、コンセプト、デザイン提案をまとめ、必要な能力を積極的に学び、実践することができるようになるのが狙いである。											
成績評価方法											
プレゼン （20%）：制作物の発表方法、内容について評価する 課題完成度（40%）：提出課題完成度を総合的に評価する リサーチ （20%）：制作準備と過程を評価する 平常点 （20%）：積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
この授業では、デザイン企画として学生に調査分析からデザイン企画提案の一連の流れを、実習を通して学びを作成します。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者はこの科目合格することができない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	企画アイデアを提案し、取り組むべき「課題」を導き出す										
第2回	「課題」に基づき、市場調査を行い、ターゲットの動向を把握する										
第3回	企画計画書を、必要なビジュアル用いながら具体的に、わかりやすくプレゼンテーションする										
第4回	審査内容を反映し、企画デザインをよりよく積み上げていく										
第5回	「課題」を改善するツールやモックのビジュアルを作成し、完成形がわかるものを制作する										

2023年度 日本工学院専門学校	
デザイン科 プロダクトデザイン専攻	
卒業制作	
第6回	「課題」を改善するツールやモックのビジュアルを作成し、完成形がわかるものを制作する
第7回	中間プレゼンテーションし、教員等の指摘を受け止め、改善点を導き出すことができる
第8回	「課題」を改善するツールやモックのビジュアルを作成し、完成形がわかるものを制作する
第9回	「課題」を改善するツールやモックのビジュアルを作成し、完成形がわかるものを制作する
第10回	「課題」を改善するツールやモックのビジュアルを作成し、完成形がわかるものを制作する
第11回	「課題」を表現するための最適な解決策を意識してデータ制作する
第12回	「課題」が的確に表現できているのか、教員と共に検証作業をする
第13回	「課題」が的確に表現できているのか、教員と共に検証作業をする
第14回	検証作業を経て、作品を修正し、期限までに作品を完成させる
第15回	最終プレゼン 「課題」と自身の計画を振り返った上で、自身の作品の最終プレゼンテーションを行う
第16回	展覧会に合わせ、展示計画やツールを検証し、制作する
第17回	自身の作品を展示し、他者に自身の「課題」解決提案としての作品を丁寧に説明できる